

Viva Humanity!
Tanuma Takeyoshi

田沼武能

人間讃歌

2023 6.2—7.30 [金] [日]

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

地下1階
展示室

【主催】公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／朝日新聞社 【特別協賛】キャノンマーケティングジャパン(株)／東京工芸大学 【協賛】東京都写真美術館支援会 【協力】(公社)日本写真家協会／(公社)日本写真協会／全日本写真連盟／(一社)日本写真著作権協会 【開館時間】10:00-18:00 (木・金は20:00まで。入館は閉館の30分前まで) 【休館日】毎週月曜日(ただし、7月17日(月・祝)は開館、翌18日(火)休館) 【観覧料】一般 700円／学生 560円／中高生・65歳以上 350円 ○小学生以下及び都内在住・在学の中学生・障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名まで)は無料。○本展覧会はオンラインによる日時指定予約を推奨します。詳細は当館ホームページをご覧ください。

100
100th Anniversary
KOGEI

恵比寿ガーデンプレイス内

Canon

TOP MUSEUM

《トラクターで移動する家族、チリ、サンチャゴ》1976年 田沼武能写真事務所蔵

東 京都写真美術館では、「田沼武能 人間讃歌」を開催します。

田沼武能は、東京写真工業専門学校(現・東京工芸大学)卒業後、写真家・木村伊兵衛に師事し、『芸術新潮』の嘱託写真家として芸術家や文化人を撮影、その後はタイム・ライフ社の契約写真家となるなど、フォトジャーナリズムの世界で華々しい活躍を展開しました。1972年からはライフワークとして世界の子どもたちを撮影、黒柳徹子ユニセフ親善大使の各国訪問に私費で同行取材を行い、生涯で120を超える国と地域に足を運びました。

田沼は国内外で精力的な取材活動を展開し、自身の作品を発表し続け、その旺盛な好奇心と行動力は生涯衰えることはありませんでした。その一方で、母校・東京工芸大学で後進の指導にあたり、日本写真家協会会長、日本写真著作権協会会長、日本写真保存センター代表など写真界の要職を歴任しながら、わが国の写真文化の普及啓発、写真の著作権保護にも力を注ぐなど、大きな役割を果たしました。本展では未発表最新作「武蔵野」を初公開するとともに、ヒューマニスティックなまなざしで人間のドラマを描き続けてきた田沼の70年を超える写真家としての軌跡を辿ります。

**私は写真家になってから、
人間のすばらしさを発見したい夢にかられて、
世界中を駆け回ってきたのかもしれない。**

『人間万歳』より 2000年



《スペイン、アンドゥハル》1975年



《神輿をかつく少女、浅草》1955年 東京都写真美術館蔵



《子どもロデオ大会に出場する少女、アメリカ》1976年



《コカの葉をかむ男、ペルー》1978年



《コーランで勉強、モーリタニア》1997年



《紙芝居、佃島》1955年 東京都写真美術館蔵



《武蔵野》より《若宮橋の川遊び、坂戸市厚川》2015年

*所蔵先の記載のない作品は、田沼武能写真事務所蔵



撮影：橋本英男

田沼 武能 (たぬま・たけよし 1929-2022)

東京・浅草生まれ。1949年にサン・ニュース・フォトスに入社後木村伊兵衛に師事。1966年、アメリカのタイム・ライフ社と契約。ライフワークとして世界の子どもたち、人間のドラマ、武蔵野や文士・芸術家の肖像を撮り続けた。1995年から2015年まで日本写真家協会会長を務める。1979年モービル児童文学賞、1985年菊池寛賞等を受賞。1990年紫綬褒章、2002年勲三等瑞宝章を受章、2003年文化功労者に顕彰され、2019年に写真家初の文化勲章を受章。2020年朝日賞特別賞を受賞。

関連事業

会期中に関連事業を開催する予定です。最新情報は当館ホームページをご参照ください。

※事業は諸般の事情により、変更することがございます。最新情報は当館ホームページをご確認ください。

www.topmuseum.jp

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 Tel.03-3280-0099
JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。
当館には駐車場はありません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

恵比寿ガーデンプレイス内

